

ドングリの保存方法

拾ったドングリをすぐに植えることができない場合は、湿らせた新聞紙で包んだドングリをビニール袋に入れ、冷蔵庫で保存する。（カビや乾燥、ソウムシ等に注意）

土づくり

苗木育成用の土の一例

- ・赤玉土（中粒）：6割 肥料も適量混合します。
- ・腐葉土：3割
- ・土壌改良剤（バ-ミキュライト、バ-ライトなど）：1割

ドングリの植え方

ドングリは深さ1～2cm程度の深さに横向きに置き、上に土をかぶせます。深く植えすぎると芽が出にくいので注意しましょう。



IV
作業

水やり

夏場は毎日、冬場は2～3日に1回程度やります。基本は地表面が乾いてきたら水やりをするようにします。水をやりすぎると根が腐ることがあるので、気をつけましょう。

肥料

1年に2回、春季（4月と6月）に肥料（化学肥料、鶏糞など）をやります。

日当たり

苗木を育てるためには、適度に日の当たる場所が最適です。1日の半分は日の当たる場所に置き、日当たりが良すぎる場合は、ヨシズや寒冷紗などで日差しを弱めた方が成長は良好です。

V. 利用

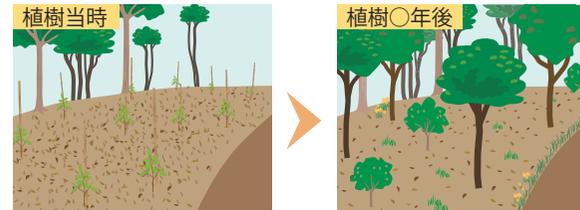
森の成長記録

森はゆっくり変化しますが、写真や記録をとっておけば、森づくりによって森がどう変わったのかがよくわかります。

定点撮影

通常の活動にあわせ、同じ場所、同じアングルで写真を撮影しましょう。苗を植栽した場所では、写真を比べれば苗の成長がはっきりわかります。

森を手入れした場所では、森の中が明るくなったり、ササが減って林床に花が咲いたりして、森に生き物が増えていることがわかるかもしれません。



植生調査

植生を正しく記録するには専門的な知識が必要ですが、知りたいことに集中して記録をとれば、森の変化がわかりやすくなります。

とった記録を日付順にならべてみると、森では見落としていた意外なことに気づくかもしれません。

項目	記録する内容
樹高を測る	【苗を植えた森】 何本かの苗に印をつけておき、定期的に高さを測ります。活動ごとに決まった苗を囲んで記念撮影をするのもよいでしょう。
	【手入れした森】 何本かの自然に生えたコナラ等の幼木に印をつけておき、定期的に高さを測ります。
植物の種数を数える	一定範囲を決めて、葉の形状等の違いから生育している植物の種数を数えて記録します。名前がわからなくても、種類が増えていることが実感できるでしょう。

V
利用

伐採木等の利用

伐採した樹木等は有効に活用しましょう。

木工クラフト

森づくりの過程で発生した材料などを使って木工細工を作ってみましょう。



木工細工（生き物）



グルーガン
（樹脂を溶かして
接着する道具）
を使うと簡単に
くっつきます。

和紙と組み
合わせて。



あんどん



落ち葉でコラージュ

画用紙の上に
葉っぱで絵を
描こう。

家庭での
ガーデニングに。



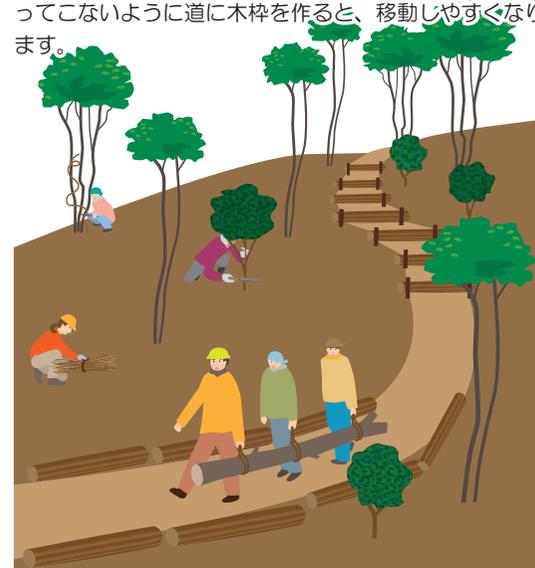
プランター&トレリス

伐採木を利用した道の整備

活動地内での作業を行いやすくするため、必要に応じて作業道を作ることもできます。

●階段・木枠

伐採した樹木を丸太として加工し、登りやすいように階段を整備したり、斜面から作業道内に石や落ち葉が入ってこないように道に木枠を作ると、移動しやすくなります。



その他の利用

●樹名板

樹の名前を書いた板を設置しておく、森を訪れた人に木の種類を伝えることができます。

固定するときには
針金や釘を使わずに、
樹皮を傷つけないよう
工夫しましょう。



●植栽の支柱

苗木の植栽にも利用できます。
（P19「IV作業 植栽 植え方」参照）